

# 玉野市立第二日比小学校

児童数 166名 ・ 学級数 8学級 ・ 教職員数 21名（平成27年1月8日現在）

## ○取組実践のキーワード

基礎・基本の定着を図る取組

## ○標題（研究主題）

子どもが学ぶ喜びを実感できる授業づくり ～「できる」「わかる」「たのしい」授業をめざして～

## ○取組を始めた経緯

全国学力・学習状況調査や学力定着状況たしかめテスト、児童・保護者・職員を対象とした調査等の結果分析から、基礎・基本の定着が十分でない子ども、学習に対する意欲や集中力に乏しい子どもが多いという課題が明らかになった。

そこで、基礎学力（読み・書き・計算）の定着を目指す取り組み方や学びのプロセスを重視した指導方法を工夫していくことで、上述した課題が解決できるのではないかと考え、取組を始めることにした。

## ○取組の実施体制

- ・ 研究主題や研究の視点に沿って授業研究を推進し、年1回、算数科の授業を全員が公開する。
- ・ 外部講師を招聘し、研究授業の助言だけでなく、理論研修や演習、模擬授業等、方法を工夫する。

## ○学力向上に向けた具体的な取組

### 【授業づくり】

「課題をつかむ→考える→学び合う→まとめる」という基本パターンで授業を展開することで、子どもたちが見通しと自信とをもって学習に向かうことのできる授業、子どもたち一人一人が「できる」「わかる」「たのしい」という思いを感じることでできる授業を目指して、授業づくりを進めていく。

### 【朝学習】

「朝学習」について、学校レベルで統一感のある取組となるよう、内容や方法を共通理解するようにしていく。

### 【全国学力・学習状況調査や学力定着状況たしかめテストの結果分析と考察】

教職員全員で、まず、調査やテストをやってみて、その問題の質を吟味したり子どもたちの傾向を予測してみたりする。そして、結果を分析し、本校の課題と解決策について考え、学力向上プランを作成し、その都度加除訂正していく。そして、その成果を日々の指導に生かしていけるように共通理解を図っていく。

## ○現在までの取組の成果と課題

### 1 成果

#### 【授業づくり】

算数科を中心に、単元や1単位時間の授業の流れが定着し、子どもたちが見通しをもって学習することができるようになり、落ち着いた雰囲気の中で学習を進められるようになった。

#### 【朝学習】

夏季休業中に先進校から講師を招き、朝の学習について講義・演習を行った。漢字、計算等、曜日ごとに取り組む学習はある程度統一されていたものの、今まで各担任任せにしていた朝の10分間のより効率的で効果的な内容や活動のさせ方等、実際に教師が体験することで、そのよさを実感することができた。この研修を受けて、2学期から新たに2週間を1サイクル、1か月前半と後半に分け、計算と漢字に取り組むようにした。子どもたちにとって自分の伸びを感じとることができやすくなり、学習への意欲にもつながっている。

### 2 課題

#### 【授業づくり】

授業研究では、「課題をつかむ」「自力解決」の場面において、追究したくなる課題の設定や提示の仕方、既習学習と本時の課題の相違点を考えさせ「あれ？」を生み出す方法等を学んだ。そして、それらを指導方法の中に積極的に取り入れることにより、子どもたちの興味・関心を高めることができることが分かった。しかし、「学び合い」の場面になると、自分の考えを発表することに抵抗感をもったり、一部の子どもの考えに流されたりする傾向が根強く残っている。子どもたち一人一人に自分の考えを伝える力を身につけさせることが次への課題である。また、子どもたちの考えをどのように広め、広げていくか、より分かりやすく視角に訴えることのできる板書や教材提示の仕方等、教師サイドの課題の解決も急がれている。

#### 【朝学習】

朝の時間は、実質、水～金曜の毎週3日間しかなく、計算と漢字を2週間を1サイクルとして回しているが、同じことに6日間しか継続して取り組めない。そのため、計算が終わり、漢字を挟んで次の計算となった場合、せっかく身に付けていた学び方や学んだことが、少し元に戻っていることも少なくない。前半と後半に分けて毎日同じプログラムができるようにする、月曜と火曜の時間設定も工夫してみる等アイデアを出し合い改善していく必要があると感じている。

## ○取組の継続・発展の要因

### 【授業づくり】

公開授業に係る研究協議や全国学力・学習状況調査やたしかめテストの結果からも、地道な取組やその方向性が間違っていないことが実証されたと考える。さらに、学力向上・授業改善に向けた教員のベクトル合わせや取組の大枠の形成がされてきていることから、来年度も、大筋では本年度と同じテーマや方法で継続実践していく。研究の視点としては、「学び合い」に焦点を当てて研究を深めたいと考えている。

### 【朝学習】

来年度は、1学期は本年度と同じ取り組み方で行うが、夏季休業中にその取組について検証し、週時程や日課表を検討する等、改善を図っていくことにした。また、実践したことを記録に残し、朝学習の年間計画が作成できたらと考えている。

## ○管理職・中核教員等のアクション

- ・専門性の高い教師や先進校の実践家等を講師に招聘し、他校の教員も参加しての研修を企画・実施したこと。
- ・中学校区の3校で、3年に1回持ち回りしていた授業研修会を毎年3校共に行うよう改革したことで、小・中、小・小の授業連携が進んだこと。
- ・学校長の学校経営計画に関するプロジェクト会議を新たに立ち上げ、学力向上・授業改善について、計画の進捗状況を把握したり、取組について意見交換を行っていったこと。

## ○その他の資料・写真等

学校だより「二日比っ子」10月号より



1年生は、カード練習を全員でした後、サクランボプリントに取り組んでいます。このプリントでは、「数の分解」をします。「8は4と0」これは、計算をする時にとっても大切な力となります。九九と同じように、数の分解がスラスラ言えるようになることは、四則計算の計算力アップにつながります。



集中して、10マス計算（100マス計算を10行に分けた物）に取り組んでいる6年生。教室には、鉛筆を走らせる音だけが響いています。

速い子は、5秒前後のタイムで10マスの計算ができるようになりました。